

2023 年度 梶山女学園大学看護学部卒業生に関する雇用先へのアンケート調査結果の概要

I. 調査目的

梶山女学園大学看護学部は 2010 年に開設され、2024 年度で 14 年目を迎える。看護学部では、これまで卒業生のキャリアを支援するために「実習施設と大学との懇談会」や卒業後の転職・退職等の動向調査等、様々な取り組みを行ってきた。また、2021 年度には自己点検・評価の一環として、病院看護管理者による外部評価において本学卒業生の卒業後の動向や成長等について聞き取り調査を行った。それらの取り組みに続き、2022 年度から「雇用先からの卒業生に対する評価」に関するアンケートを実施している。さらに、2023 年度の「雇用先からの卒業生に対する評価」に関するアンケート結果を教育課程の改善に結びつけることを目的として、以下の調査を実施した。

II. 調査方法

1. 看護部へのアンケート調査協力の依頼

調査対象施設は、2023 年度に本学卒業生が 3 名以上就職している県内の 15 医療機関とした。調査依頼は 2024 年 1 月から 2 月に、看護学部長・教務委員長・臨地実習調整者等が施設を訪問し、看護部長と新卒看護師を直接指導している中間管理職（以下、管理者）へのアンケートについて協力を依頼した。なお、管理者への依頼は一施設につき 5 名～10 名とした。

2. アンケート調査の内容

看護部長へのアンケートは、本学卒業生の動向調査（年度別入職者数および在籍者数、本学卒業生の中途採用者）、卒業生の良い点・さらに伸ばしたい点、印象に残っているエピソード、課題・改善点、本学への意見・要望に関する自由記載とした。

また、管理者へのアンケートは、卒業生の①感性（物事の受けとめ）、②思考（臨床判断）、③行為（患者とのかかわり）、④チームワーク（スタッフとのかかわり）の特徴と、⑤本学の卒業認定・学位授与の方針（以下、ディプロマポリシー）が身につけているかについて、それぞれ 6 項目を設定し、計 30 の質問項目への 4 段階評価（リッカート尺度）と、卒業生について印象に残っているエピソード、本学への意見・要望に関する自由記載とした。

III. 結果概要

調査対象施設全てから回答が得られ、3 名の看護部長および 57 名の管理者からの回答を集計した。

1. 卒業生の動向調査

回答を得た 3 施設の 2023 年度（10 期生）の入職者数および現在の在籍者数は、入職者 28 名、在籍者 28 名であり、退職者はいなかった。なお、2023 年度の本学卒業生からの中途採

用者はいなかった。

2. 看護部長へのアンケート結果

看護部長へのアンケートにおいて、1) 本学の卒業生の良い点・さらに伸ばしたい点、2) 本学卒業生の課題・改善点、3) 本学卒業生の印象に残っているエピソード、4) 本学への希望・要望について、以下の記載があった(表1)。

表1 看護学部長による自由記載内容

	主な回答
1) 本学卒業生の良い点・さらに伸ばしたい点	素直で、物事に一生懸命である。協調性がある。 以前の方がガッツがあり、やりたいことを明確に考えていた方が多かった気がする。現在 DMAT として活躍している卒業生もいる。看護師になって何をしたいか、ある程度で良いので、なりたい自分を持つことができるよう、働きかけてもらえればと思う。
2) 本学卒業生の課題・改善点	考える力、学ぶ意欲。以前に比べてやや低下している感じがある。しかし、これは全体的かもしれない。 思い当たらない。
3) 本学卒業生の印象に残っているエピソード	こちらが声をかけると、素敵な笑顔で対応してくれる。患者さんたちにも同じ対応ができています。
4) 本学への希望・要望	実習場所毎に教員の配置があり、密に情報交換ができていたので良いと思う。 素晴らしいディプロマ・ポリシー、素晴らしい学ぶ環境を持っている。貴校らしさ、貴校の良さを学生たちがもっと理解できる(卒業生としてプライドをもつ)と思う。とても期待している。 一人一人個性がある為、回答は難しく、信頼性は低いと思うので参考程度にしてほしい。環境への適応はそれぞれで、学習スタイルや習得度も時間的スパンは幅がある。この現状にどこまで臨床が耐えられるかだと思う。個人の問題を職場に解決を求める傾向はあるが、新人に限った事ではなく、自分の力で対応するというスキルが弱い印象はある。依存型の方が多い気がする。

3. 管理者へのアンケート結果

本学卒業生に関する評価として、①感性(物事の受けとめ)の特徴である6項目において、“とても思う・ある程度思う”と肯定的に回答した累計の割合は65.2%、②思考(臨床判断)は67.8%、③行為(患者とのかかわり)は74.9%、④チームワーク(スタッフとのかかわり)は80.7%、⑤本学の卒業認定・学位授与の方針(以下、ディプロマ・ポリシー)が身についているか(到達状況)は81.6%であった(表2)。

表2 質問項目(各6項目)において肯定的評価を得た割合

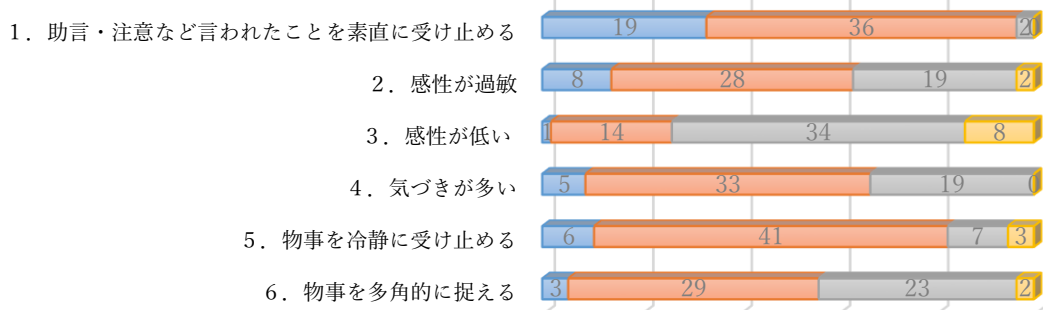
質問項目(計30項目)	とても思う	ある程度思う	計(%)*
①感性(物事の受けとめ)6項目	42	181	223(65.2%)
②思考(臨床判断)6項目	46	186	232(67.8%)
③行為(患者とのかかわり)6項目	86	170	256(74.9%)
④チームワーク(スタッフとのかかわり)6項目	78	198	276(80.7%)
⑤ディプロマ・ポリシーの到達状況6項目	32	247	279(81.6%)

*回答者57名×6項目=342で計を除して%を示した

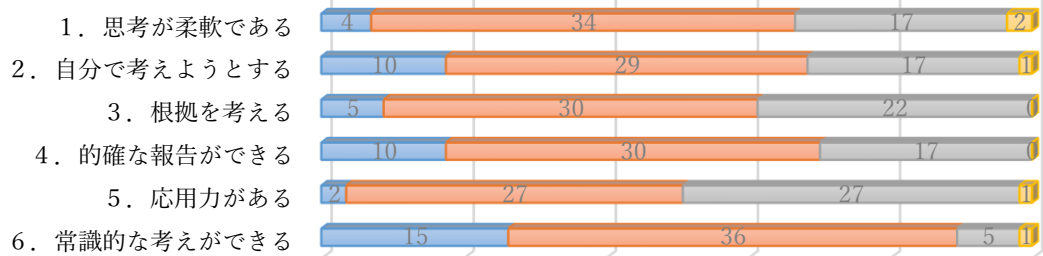
管理者への全30項目の質問に対する回答状況について、4段階評価の割合を示す(図1)。

■とても思う ■ある程度思う ■あまりない ■ない

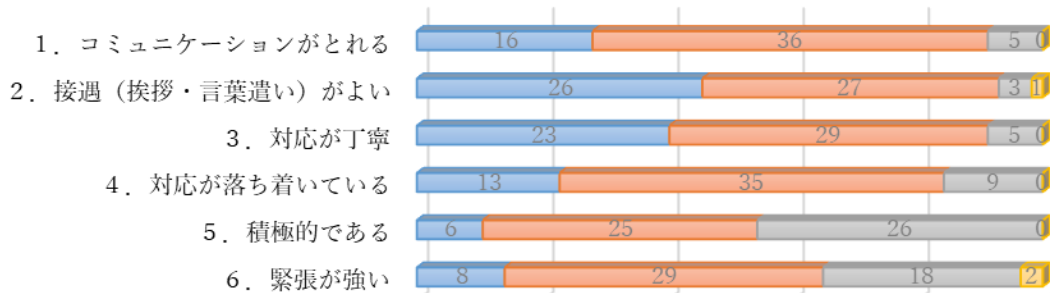
①感性（物事の受けとめ）の特徴



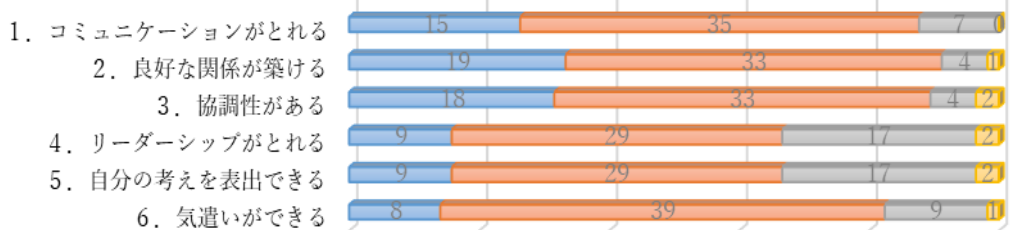
②思考（臨床判断）の特徴



③行為（患者とのかかわり）の特徴



④チームワーク（スタッフとのかかわり）の特徴



⑤新卒者にディプロマポリシーが身に付いているか

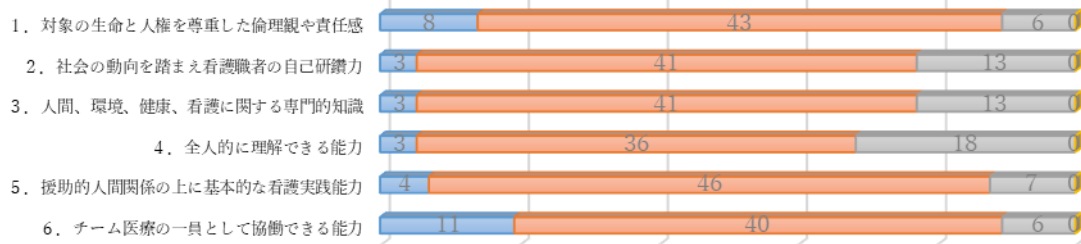


図1 管理者への質問（30項目）の回答状況 【グラフ内の数値は%】

管理者へのアンケートにおける自由記載内容を整理した結果、本学卒業生の印象に残っているエピソードとして、〈素直に取り組む〉〈意欲的に努力する〉〈行動力や責任感がある〉〈社会人としての基礎力が低い〉といった【仕事に対する姿勢・態度】、〈患者や家族に丁寧に対応する〉〈患者や家族に真摯に向き合う〉〈自ら考えて看護を実践できる〉〈行動に時間がかかる〉といった【看護師としての実践力】、〈コミュニケーションがとれる〉〈協調性があり組織に適応できる〉〈対人関係において課題がある〉といった【職場における対人関係能力】に関するエピソードが示された（表3）。

表3 本学卒業生の印象に残っているエピソード（管理者）

		主な回答
仕事に対する姿勢・態度	素直に取り組む	素直で、大変な部署であっても業務を覚えたいという気持ちをとともっており頑張っている。
		相対的に実直な印象を持っている。
		就職して先輩のフォローも外れた6月頃、予定したケアが時間通りに進まない、先輩に上手く報告が出来ないなどで悩んでいる様子があった。時間外勤務も他の新人より多かったため、部署内でも面接やメンタル面でのフォローをしながら業務量を調整し、一つずつ確実に看護技術や知識を身につけられるように配慮した。本人も努力を重ね、現在は新人看護師に求められる基本的な看護技術を獲得する事が出来ている。患者やスタッフとのコミュニケーションは上手に取れており、先輩からの指導についても素直に受け入れる事が出来ていたからだと考えられる。
		勤務変更など依頼したことにに関して常に快く対応してくれている。
		与えられた役割に応えようと学習できる姿勢があるという印象。
	意欲的に努力する	指導を受け勤務する中、急変時の対応をする先輩スタッフをみて、自分もあのように成長したいと目標を表出し、頑張ろうとする姿を頼もしく、印象深く思っている。
		日勤後でまだ業務を終えていない同僚看護師に声掛けして業務をカバーしていた。同期同士が協力的なためか、不安を持ちながらも順調に成長を感じられている。
		勉強の仕方が基本的に身につけているので、後半からの成長が素晴らしかった。
		入職時より積極的に学習を進めており、部署の新規採用者の中でもトップクラス。

		<p>仕事に適しているのか悩む時期はあったが、先輩の話を受けて前向きに捉えて行動に変化がみられた。</p> <p>急な予定変更や初めて患者の急変対応に直面しても焦らず対応や相談ができる。時間的余裕の有無にかかわらず、物事に動じず目の前にある仕事を早くこなし全うしようとする能力も高いと思う。</p> <p>自分の苦手分野を避けるのではなく克服しようという気持ちがあり、自ら勉強する姿勢がある。</p> <p>最初は緊張感している様子は強く感じた。しかし、何事にも一生懸命取り組み姿勢はみられている。</p> <p>自己評価が低めであるが、日々悩みながらも頑張っており取り組んでいる。</p>
	行動力や責任感がある	<p>シミュレーション研修後の感想・まとめを新人代表としておこなってくれた。</p> <p>提出物や資料閲覧など期日厳守し、連絡事項を伝えると「他の一年目にも伝えます」と同期の中でリーダーシップを発揮している。</p>
	社会人としての基礎力が低い	<p>やや提出期限などがルーズになることがある。</p> <p>指導したことが入らず、同じようなことを注意する必要がある。</p> <p>業務の場以外での発言が、看護職の倫理綱領からは外れていることがあり、勿体無いなど感じる。</p>
看護師としての実践力	患者や家族に丁寧に対応する	<p>常に穏やかで、誰に対しても丁寧に対応している。笑顔も素敵。</p> <p>接遇も丁寧で、患者よりお褒めのお言葉を頂いている。</p> <p>患者対応が丁寧である。</p> <p>患者さんとの対応で目線を合わせて丁寧に対応ができていた。</p> <p>患者の声を丁寧に聴き、丁寧に対応する姿は感心できる。また、患者や家族から感謝の言葉を頂くことがよくある。</p> <p>手術後に声が出なくなった患者さんの話を丁寧に傾聴して、先輩看護師と振り返りをしてきた姿が印象的だった。いつも優しく、相手の置かれた状況を推し量って物事を考えており、対象者を尊重して看護する姿勢が備わっていると考える。</p>
	患者や家族に真摯に向き合う	<p>ほとんど関わりなかった患者が亡くなられ、お見送りに一緒に入った時、患者、家族への対応がとても真摯で思いやりがある態度で接する事ができていた。</p> <p>患者 A に怒られても真摯に向き合い、笑顔で接していた。その光景を患者 B が見ており、患者 B が感銘を受けていた。</p> <p>患者が苛立ち、威圧的な態度をとっても、誠実に一つずつわかりやすい言葉で説明を行なった。どんな状態の患者に対しても、向き合っている真摯な姿がとても良いと思った。</p>
	自ら考えて看護を実践できる	<p>指示を待つのではなく、自ら考え「～してきます」という行動ができる。</p> <p>先輩が気づかなかったことを自分で判断して、先輩にも確認がきちんとしてきていた。</p> <p>はじめて採血する場面で、処置の手順で頭がいっぱいになるかなと思ってたが、振り返りの際に、処置の手順だけでなく、患者の不安軽減のためにどんな声かけが必要であったか、どんな環境を整えたら良かったのかの振り返りまでできていたので、患者を第一に考えて看護ができていたと感じた。</p>
	行動に時間がかかる	<p>丁寧ではあるが、何事に関してもゆっくり過ぎて時間管理が難しい。</p> <p>知識や熱意は感じるが、総じてゆっくりしている。</p> <p>熟慮して、促されてから発言する。</p> <p>午前中の清潔ケアの片づけを行わず、次の業務(時間厳守の業務)に取りかかってしまい、後で3回くらい片づけするように声かけされたが、それが終業時までできなかった。</p>
	職場における対人関係能力	<p>コミュニケーションが十分に取れており、信頼関係が築けている。退院時に名指しで挨拶に来られる患者がいる。</p> <p>患者から慕われ、明るくコミュニケーション能力が高い。</p> <p>洗髪を行う中、患者とのコミュニケーションの取り方が良く、患者との信頼関係を築くことが上手い。</p> <p>自分の意思表示をはっきりと伝えることができる。</p>

		先輩看護師に相談しながら、受持ち患者の看護展開を確実にやっている。患者との関係性も良好。
		スタッフとのコミュニケーションはよく取れているため、今後はさまざまな経験を積み、患者主体でコミュニケーションをとったり看護が考えられるようになれるとよいと考える。
	協調性があり組織に適應できる	礼儀正しく、相手に与える印象が良い。
	協調性があり組織に適應できる	管理実習を受けて、現在部署の配属を希望したと聞いた。私が話した内容も覚えて、驚いたのと嬉しかった事が印象的だった。
	協調性があり組織に適應できる	認知症があり、環境の変化によるせん妄症状が強い患者に対して、他のスタッフと一緒に、患者に対してレクリエーションを実施していたこと。
	対人関係において課題がある	プライドが高く、先輩からの指導をされるということがうまく受け入れられず、ストレスに感じている様子であった。
	対人関係において課題がある	話をしているにもかかわらずわかっているのかいないのか意志表示がなく指導に戸惑うことがある。
	対人関係において課題がある	返事は良いが、どの程度理解して返事をしているのか分からないところがある。
	対人関係において課題がある	患者さんにタメ口で話してしまう。
	対人関係において課題がある	対象の気持ちに寄り添えない言動で、出入りを拒否された。

管理者からの本学への意見・要望としては、【社会人としての基礎力】、【主体的に取り組む姿勢】【精神面の自己管理】【臨地と大学との連携】【質の高い教育の継続】に関する意見がみられた（表4）。

表4 本学への希望・要望（管理者）

	主な回答
社会人としての基礎力	看護師になりたいと思ってなってくれたのなら、その思いと、社会人基礎力の部分をうまく結び付けてあげられるような関わりが出来ればと思う。学生から社会人へと移行していく1年目をうまくサポートさせて頂きたい。
主体的に取り組む姿勢	わからないことをどうやって調べるか、できなかったことをどうやって克服するか、考える力に欠ける新人が多く、学習方法の指導から必要であるため、自分で学習する力を身につけさせてほしい。
精神面の自己管理	就職はじめて、自信を失ってしまうことがある。できないときにもやり抜く力があると、自信につながると思う。
臨地と大学との連携	就職先を選ぶときに学生が自身の特性に合った就職先を選ぶよう、自己理解と仕事理解を促す関わりをしてもらえると助かる。
質の高い教育の継続	部署の中での自分の立ち位置を理解して、コミュニケーションを上手くとることができている。
	患者、家族への接遇が丁寧にできており、良いと思う。
	とても戦力になる看護師に育ってくれている。
	これまでの先輩方の素晴らしい能力は、とても戦力となり、患者さんに寄り添った看護であると思う。
	他の大学と比べると、社会人として人間関係を円滑にするスキルを身につけることができている人が多いと感じている。
	大変素晴らしい人材。当院を選んでいただいたことに感謝している。
	個人差はあると思うが、貴大学の卒業生は、患者さんへの言葉遣いや対応が的確にできる傾向にあると感じている。
卒業生の方々みんな頑張っていると思う。	

IV. まとめ

15 医療機関のご協力により、昨年度に引き続き雇用先からの卒業生への評価を明らかにすることができた。看護部長へのアンケートの自由記載には、「本学卒業生の良い点・さらに伸ばしたい点」として、“素直で、物事に一生懸命である。協調性がある”といった意見がみられた。また、管理者へのアンケートの「本学卒業生の印象に残っているエピソード」として、〈素直に取り組む〉〈意欲的に努力する〉〈行動力や責任感がある〉といった本学卒業生の【仕事に対する姿勢や態度】や、〈患者や家族に丁寧に対応する〉〈自ら考えて看護を実践できる〉といった【看護師としての実践力】が示された。これらは昨年度のアンケート結果と同様であり、今年度は新たに〈患者や家族に真摯に向き合う〉エピソードも得られた。

これらの結果から、昨年度の調査と同様に、本学卒業生は「対象の生命と人権を尊重し、看護職者としての倫理観や責任感」といった本学のディプロマ・ポリシーを獲得し体現していると考えられる。また、“自分の苦手分野を避けるのではなく克服しようという気持ちがあり、自ら勉強する姿勢がある”“患者が苛立ち、威圧的な態度をとっても、誠実に一つずつわかりやすい言葉で説明を行っていた。どんな状態の患者に対しても、向き合っている真摯な姿がとても良いと思った”と、「看護職者としての自己研鑽力」「援助的人間関係」などディプロマ・ポリシーに関係する能力についても獲得している現状が示された。

さらに、管理者へのアンケートにおける、卒業生の①感性（物事の受けとめ）、②思考（臨床判断）、③行為（患者とのかかわり）、④チームワーク（スタッフとのかかわり）への回答においても、肯定的な評価が6割から8割であり、⑤本学のディプロマ・ポリシーが身につけているかの質問項目に対して約8割の肯定的な回答を得ていることから、多くの卒業生が雇用先において直接指導している上司から一定の評価を得て就業していると思われる。

しかし、“知識や熱意は感じるが、総じてゆっくりしている”“返事は良いが、どの程度理解して返事をしているのか分からないところがある”といった回答がみられたことから、看護実践や職場での対人関係において課題があることも示された。これらの結果とともに、本学で取り入れているコンピテンシーテスト（GPS-Academic）の結果等の客観的データを参考に教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善を目指す必要があると考える。

本学への意見・要望としては、看護部長から“実習場所毎に教員の配置があり、密に情報交換ができていたので良いと思う”と【臨地と大学との連携】に関する意見が得られた。また、管理者からは“他の大学と比べると、社会人として人間関係を円滑にするスキルを身につけることができている人が多いと感じている”“患者さんへの言葉遣いや対応が的確にできる傾向にあると感じている”といった【質の高い教育の継続】に関する回答がみられた。卒業生の雇用先からいただいた貴重なご意見を、本学の教育課程の自己点検・評価につなげるため、今後も調査方法等の工夫を重ね、定期的に継続していきたいと考える。

ご多忙な折にもかかわらず、卒業生の状況を考え、本学への要望や期待を込めて、アンケートにご協力くださいました看護部長様、管理者の皆様に深く感謝いたします。

以上